

アーナンダ病院見学の感想

金沢大学医療系サークルKURE

病院に到着したとき、患者の多さに驚いた。また、この大勢の患者を一人で診察しているグプタ医師のパワーにも驚かされた。設備や薬も十分ではないと思うし、看護師もいない。そんな環境の中、病院を成り立たせているのはグプタ医師の献身、スタッフの協力、患者との信頼関係であるのかなと思った。また、母子保健では女性の方が真剣に話を聞いていた。女性の識字率が低いと聞いていたので、その面をカバーするために口頭や紙芝居のようなもので伝えており理解しやすいと思いました。お忙しい中、わたしたちのために時間を割いてくださって本当にありがとうございました。

看護1年 石亀春奈

今回 AHP を見学させていただいて、グプタさんの話を聞いて思ったのは地方などでは本当に信頼関係というのが重要なんだなあということです。これは日本の地域医療とも関係しているし、どこでも課題というか、大事なことは変わらないんだと再認識する機会になりました。信頼関係で結びついた患者さんと触れ合うグプタさんが本当に輝いて見えて、こんな医師になってみたいなとも思ったし、信念を持って医療に接したいと思いました。

医学1年 鎌田武人

今回アーナンダ病院を見学させてくださりありがとうございました。日本ではまだ経験することができない、診察の見学や体験をすることで、医学に対するモチベーションの向上に繋がりました。そして、グプタ先生の診察を見学させていただいて、患者さんとの信頼関係を築くことの大切さは世界共通であると感じ、また、自分も将来グプタ先生のようになりたいと思いました。貴重な体験をさせてくださり本当にありがとうございました。

医学1年 柴野芳彰

めずらしい病気をまじかで見ることができ、また、グプタ先生の診察風景もみせていただいて、本当にいい経験をしました。ありがとうございました。一人あたりに対する診察時間がとても短いことに驚きました。その短い診察の中での的確な判断をしていることが本当に凄いと感じました。

看護1年 野尻早紀

僕はアーナンダ病院を見学させてもらって特に印象に残ったことが二つあります。まず一つ目は、患者さんたちが何ひとつ文句を言わずに僕らの診察見学に協力してくれたこと

です。これにはやはりグプタ先生の存在が大きいと思いました。信頼できるグプタ先生が連れてきた学生だから信用できるし、協力もできる、患者さんたちはこう考えたのではないのでしょうか。次に二つ目は、自分の英語力の拙さを痛感したことです。診察見学中、グプタ先生がわかりやすいようにゆっくりはっきりと説明してくださっているのに、一度ついていけなくなると全然説明されている内容がわからなくなっていました。質問も、したいことがいくつかあったのに、うまく質問できるのかが心配で質問できなかつたりしました。英語の勉強をしっかりとしていかななくてはと強く思いました。

医学1年 本田雅希

病院の施設だけではなく、診療の様子まで間近で見せてもらい、グプタ先生は様々なお話をしてくださり本当に嬉しかったです。

グプタ先生と数人のスタッフさんと病院をうごかし、お忙しい中私たちをあたたかく迎えて、貴重な体験をさせてくれたアーナンダホスピタルの方々、そして今回このような機会をつくっていただいた大竹さんにはとても感謝しています。

本当にありがとうございました。

看護1年 山崎千桜

この度は突然の訪問を快く受け入れてくださり、本当にありがとうございます。

アーナンダ病院では、本当に良くしていただきました。豪華な食事や、美味しいチャイなど、すごい嬉しかったです。それよりも、感動したのが、マラリアや、象皮病など、日本の風土病とは異質な病気を見させていただいたことです。グプタ先生が熱心に解説していただいたお陰で、大変よく理解できました。グプタ先生は診療が終わった後も私たちの質問に答えてくださり、ああ、なんてグプタ先生は人格者なのだろうと思いました。

アーナンダ病院で、たくさん事を学びました。日本に帰っても、忘れる事の無いよう、アーナンダ病院で学んだ事、思い出を心に刻みつけ、いつかグプタ先生のような名医になろうと思いました。本当にありがとうございました。

医学2年 秋葉力

インド福祉村協会様

私にとって最も印象的だったのが、他の国での地域に根差した医療に触れたという経験です。

私が触れてきた20年間の日本の医療と今回体験させていただいた医療というのは、設備の面や病気の種類、宗教的なことなど日本では経験できないような「違い」というものに触れることができました。

しかし、グプタ医師と話していく中で根本的な医療への取り組む姿勢というものは異国の地であろうとも「同じ」であることに私は強い感銘を受けることができました。

このたびはアーナンダ病院への見学をさせていただき誠にありがとうございました。

理学療法 2年 井出将斗

まずグプタ先生をはじめ、アーナンダ病院のスタッフの皆さま、そして診察に来られていた現地の方々に深くお礼申し上げます。アーナンダ病院は十分な医療機器もなく常駐の医師も1人しかいない、という点では決して恵まれた環境ではないと思います。しかし、お互いがより近い環境だからこそグプタ先生と患者さんとの間には強い信頼関係が生まれてくるのだなとそう肌で感じました。ある意味、日本の地域医療にも通じるところがあると非常に参考になりました。

看護 2年 大久保咲貴

アーナンダ病院を訪問させていただく中で、最も私が楽しみにしていたのは、母子教育の見学でした。年齢層の幅広い女性達は、母子教育のお話をとても集中して聞いておられ、その真剣なまなざしは、希望と好奇心に満ちた瞳から発せられていました。週二日制で、村の女性達に来てもらい、母子教育の勉強をしてもらうというシステムづくりには、多くの苦労があったと思います。現在、こうして母子教育が村に浸透してきたのは、村人のアーナンダ病院への信頼が深いために、グプタ先生方の思いが村人にも伝わっている、という良好関係が築きあげられているからではないかと思いました。大竹さん、インド福祉村協会の皆さま、本当に貴重な体験をありがとうございました。

看護 2年 小林友理佳

今回、本当に有意義な時間を過ごすことができた。グプタ先生が検査機器をほとんど使わず、問診、視診、触診を中心に診療をされ、その患者さんの性格や歴史、生活を見て診断しておられて、こんな医師になりたい、こういう診断をしたい、と強く感じた。またグプタ先生が患者さんに非常に信頼されているのが感じられた。日本でほとんど見ることのできない症例をみることができたことは、私にとって大きな財産となると思う。土地や文化、流行する病気は違っても、病院のスタッフの患者さんを思う気持ちは変わらないな、と感じた。貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

医学 2年 相馬麻由子

アーナンダホスピタルは、緑に囲まれた細い道を進んだ先に建っていて、そこには穏やかな空気が流れていました。病院のスタッフもとてもフレンドリーな方たちで、日本で想像する「病院」の堅い雰囲気とは少し違うように感じました。衛生教育の会場には幅広い年齢層の女性が集まり、熱心に話に耳を傾けておられ、農村地域であるにもかかわらず、衛生への関心が広まっていることに驚きました。スタッフの方々の努力の賜物なのでしょ

う。このように地域に根付く医療現場を実際に見て勉強させていただけたことは、本当に貴重な体験であったと感謝します。

医学2年 盛田玲奈

マラリアや象皮病など、今まで紙上の知識でしかなかった熱帯病を実際見ることができたのはとてもいい経験になりました。グプタ先生には忙しい診察中にも関わらず、処置の仕方などを僕たちが理解するまで根気強く説明していただき、本当に感謝しています。また、グプタ先生はお話の中で、良い医師の条件は、まず技術、そして人間性だとおっしゃられていて、良い医師の条件は万国共通なのだと感じ入りました。

診察や母子保健教室では、地域住民のアーナンダ病院への信頼が伝わってきて、地域医療の在り方についても考えさせられました。

このような貴重な経験をするチャンスを与えてくださり、インド福祉村協会の方々、グプタ先生、シンさんを始め病院スタッフ、現地のみなさん、ありがとうございました。

医学3年 三野耕平

クシナガルという聖なる土地に存在するアーナンダ病院は、人里を少し離れた場所にあった。だが、そんな人里離れた病院にも待合から入口まで溢れんばかりの村の人々がやってきていた。そのことから考えられるように、とても地域に密着している病院なのだと思った。そのアーナンダ病院は、少ない限られた医療機器、医師が1名などといった患者さんを診療するためにはあまり恵まれた環境ではないかもしれない。しかし、実際にはその環境に勝る素晴らしい医療が施されていた。日本から来た私でも感じ取ることができた暖かいスタッフの皆さんの温かい雰囲気、Dr.グプタの優しさと膨大な知識と経験、スタッフ間の連携のスムーズさ、病院に来る患者さんだけでなく、地域における保健活動、そんな心温まるアーナンダ病院の医療魂に、“命を助きたい…という気持ちに不安を持たず、純粹に素直になり行動を起こすこと”を教えて頂いた。

また、見学、交流を通して将来自分が医療技術を身につけた際には再び訪問したいと思った。

今後、私にも何かできるかな…と考えていこうというきっかけとなった2日間だった。

ありがとうございました。

看護3年 渡邊とも